

---

# 緋弾のエリア カードで世界を救う

野々宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

緋弾のアリア カードで世界を救う

### 【Nコード】

N9075X

### 【作者名】

野々宮

### 【あらすじ】

天使の手違いにより死んでしまった棗 悠太  
代わりに転生者としてアニメの世界に行ける事になった！しかもチート能力もくれるというありがたき幸せ！  
これを生かして原作ブレイクしてやるぜ！

## プロローグ？（前書き）

この小説は主人公半チート・原作ブレイクしていますので、原作が好きな方や汚されたくない人はお勧めしません。  
それでも読みたい方は作者の駄文をご覧ください。

## プロローグ？

「あれ・・・俺は何をしてたんだ・・・？」  
ふと思い出す。

「えっと・・・朝起きてから朝飯食べて自転車乗って学校に行ってる途中で・・・」そうだ、信号待ちをしていたら事故にあったんだ！

俺はどうなった？痛みすらないという事は軽傷か？病院にでもいるのかな・・・そんな疑問を繰り返していると

「どうでしょうか？かなりまずい状態ですが・・・」  
「仕方ないだろ！お前のせいだ！」

ん？事故の話でもしてるのかな？ってことはかなり大きい怪我なのか・・・

そんなことを思っていたが、現実には甘くなかった

『やっぱり死にましたね・・・ご冥福を祈ります』

「は！？俺死んだの!？」

「はい、死にました・・・って、ええっ!?!？」

「私がこつちとの干渉を認めたのだ、ありがたく思えよ」

えっと・・・バカなのでまだ理解が出来てません。 どういう状況？

「えっと・・・あの、その・・・ごめんなさいっ!!」

「いや、急に謝れても困るんですが・・・一体どういう状況なんですか？」

「えっと、結論から言うと俺はディアの手違いで運転手だけが死ぬ運命だったのが俺も死んで2人とお話中ってことですよね？」

この人の名前はディアさん。ディアさんは金髪ツインテの美人だった。アニメのキャラで言うとりりカルなのは(A、S)のフェイトに近い感じた。

「そういうことだ、うちの者が迷惑をかけてしまった。その点に関しては私からも謝罪しよう。すまなかった」

この人はエリックさん。名前や言動からして男っぽいけど、とても綺麗で清楚な黒髪サイドポニーだ。これもアニメキャラで例えたらリリカルなのは(sts)黒髪verのなのだ。

この人たちが狙ってるのか？と言わんばかりの2人だが驚いたことにこの2人は俺らの世界で言う【天使】だそうだ。

「で、俺はどうなっちゃうんでしょうか？」

「普通は輪廻転生。だが今回は特殊な例だ・・・というか一度も起こった事が無いんだ。」

「えっと・・・輪廻転生じゃないんですか？」

「難しい事なんだ、というか説明がめんどくさい」

「めんどくさいはないですy」あ”あ”!?”「ごめんなさい自分のせいです……」

「コントをしている場合じゃなくてですね」

「輪廻転生が無理だ、しかし手はある……」

「ホントですか!!その方法は?」

「別世界……異次元世界に転生する事だ」

えつと……別世界?異次元世界?どういうことですか……

「例えば……名前は確か棗 悠太だったな。お前が好きだったアニメがあるだろう?その世界に行く事が出来る。」

「マジですか!?実在しないのにその世界に行けるんですか!」

「実在しないと思っただけで存在する世界は無限とある。」

あられもない事を淡々というエリックさんに驚きだが、もっと驚いたのはアニメの世界に行けるとい話だ。

前の人生?ではにわかオタクとして日常を楽しんでいたんだが、ネタでよく2次元にいきたい!やら は俺の嫁!とか叫んでた事が今、実現するのだ!これはやりたい放題できるんじゃないか!?ウエヒヒ

こんな事を思っているとディアさんが

「私の責任なので世界軸は私が設定します!」

「素人が世界軸の干渉など無理だぞ。止めとくんた。」

「それでもやります！自分の失態は自分で拭きます！」

「仕方ないな・・・では、私はこれにて失礼する。色々忙しいんだ。悠太よ・・・その世界では何でも出来るわけじゃない。しかし『未来』を変えることは出来る。お前が進む新しい道だ、自分で道を作ることも可能だ。とにかく頑張れよ。」かかとを返し俺とは反対方向へ歩いて行った。

しかし、途中で止まり一言だけ言って行った。

「その世界での能力を半ばチート状態にしておいた。成長するかしないかはお前の努力次第だ。」

「わかりました！！」

俺はこの時にこの言葉を真に受けてなかったのが最大のミスだった。

「とこういうことのでいきたい世界を決めて下さい！」

「うむ・・・なのはも良いんだが fate の世界でも良いな・・・」

俺はかれこれ30分以上悩み続けていた。

「どうせなら原作ブレイクしたいし・・・エリックさんが能力くれたらしいし・・・悩むなあ・・・」

「そんなに重要な事なのですか？棗様」

「棗様って・・・ユウタって呼び捨てで良いよ」

「いいえいえ！自分は棗様に多大なるご迷惑を……」

「その話はもうなしで良いでしょ？もう終わった事は戻せないんだ。」

「……わかりました。ではユウタさんで」

「さん付けも良いんだがなあ……まあ後々慣れていつてよ」  
「わかりました！」

さて、どこに行こうか……迷ったな……

もういつその事アリアの世界に……アリアの世界って結構面白そうじゃないか！？あれもにわかレベルだが大体はストーリー覚えてるし

「決めたよ！緋弾のアリアの世界……場所は武偵高だ！」

「了解しました！では転生しましょう！」

「……ってディアも行くのかい？」

「私も同伴しなくては行けなくて……じゃないと世界軸の歪みが・

……」

「ああ、もうよくわからないがとりあえず一緒に行こう！早くアリア達に会いたい！」

「では出~~~~発~~~~！」

「いつくぜええええええええええ」



## プロローグ？（後書き）

どうも、作者の野々宮です。

思いつきで実行してしまい今では反省に至ってます  
能力等はまた次回に説明等が入ると思います。

では次回にアリーヴェデルチ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9075x/>

---

緋弾のアリア カードで世界を救う

2011年10月25日02時00分発行